

## 全国巨樹・巨木林の会

### 第30回 巨木を語ろう全国フォーラム開催記念 巨樹・巨木林の健康診断

### 「神明宮の大ケヤキ」の健康診断



助成区分

植栽

環境保全

調査・  
研究

教育・  
啓蒙

実施状況

診断者:延べ50名  
見学者:50名

100名

調査・診断回数

4回(日)

活動の全体目標に  
対する達成度

90%

#### 課題

「第30回巨木を語ろう全国フォーラム」の開催地である金沢市のシンボルツリーの一つである「神明宮の大ケヤキ」の公開診断と、その成果の公表により、巨樹・巨木林の保全思想を市民及び全国に広く啓発する。

#### 活動内容

- 第1回(3/20) 診断調査:外観診断と衰退度調査(樹木医11名参加)。
- 第2回(5/20) 診断調査:ツリークライミングと高所作業車による、高所診断(樹木医15名参加)。
- 第3回(6/11) 診断調査(市民への公開診断):土壌環境と根系の生育状況の調査(樹木医18名参加)。  
この診断は一般公開として実施し、見学者に大ケヤキの故事来歴・生育状況・診断方法などを解説した。
- 第4回(6/24) 診断調査:精密診断機器による樹冠腐朽状況の調査(樹木医6名参加)。  
診断報告書の作成と配布:環境省・林野庁・文化庁・石川県・金沢市など関係機関に送付、希望される市民にも実費で頒布。  
全国巨樹・巨木林の会第24回総会(9/30)での診断結果報告。
- 第30回巨木を語ろう全国フォーラム(9/30)での診断成果の講演(樹木医2名で講演)。  
(引き続き、診断成果を、弊会会誌に掲載、TREE DOCTOR・樹木医学会誌などに投稿の予定。)

#### 成果

3~6月までの4回(4日)の診断で、延べ50名の樹木医が関わり、外観、地上部衰退度、土壌・根系、地下部衰退度、樹幹の腐朽、樹冠部の生育、病虫害など、総合的な調査・診断を完了し、その結果を報告書(A4版.51pp.)として纏めた。  
第3回目の診断を一般公開として実施し、参加された見学者(50名)や、マスコミ(テレビ金沢・北国新聞)に、「樹木教室」と称して、大ケヤキの故事来歴や診断内容、樹木の診方などについてレクチャーすることができた。  
弊会第24回総会(9/30)において、診断に関わった樹木医2名が代表して、96名の参加者に、診断結果を報告した。  
第30回全国フォーラムにおいて、診断に関わった樹木医2名が代表して、517名の参加者に、診断成果について講演した。  
公開診断や成果報告の様子が、テレビ金沢や北国新聞などのマスコミに頻繁に取り上げられたことで関心が高まり、全国フォーラムの参加者数の増加に繋がった。また、公開診断・総会・全国フォーラムなどにより、診断に関わった多数の樹木医のみならず、フォーラムへの全国からの参加者、さらには広く市民に対しても、巨樹・巨木林の保全思想の啓発へと発展した。

#### 工夫した点

診断対象木としては、全国フォーラム開催地である金沢市内において候補を複数挙げ、社会的背景・立地・アクセスなど総合的に判断し、シンボルツリーとして最も相応しいものを選定した(神明宮の大ケヤキ:金沢市保存樹指定1号)。  
公開診断開催の周知については、ポスター(1000枚)を作成し、神明宮の町会連合会や、隣の長町、弥生町会連合などの協力を得て、広報に努めた。  
健康診断結果の公開については、報告書、弊会総会での報告、全国フォーラムでの講演などで周知に努めたほか、今後も弊会会誌や関連雑誌、学会で発表するなど、地域や全国に幅広く発信して広報に努める予定である。

#### 今後の課題

今後、釧路市阿寒町(2018年)、福岡県宇美町(2019年)、東京都三宅島(2020年)にて「巨木を語ろう全国フォーラム」の開催が予定されている。各開催地のシンボルツリーの公開健康診断を引き続き実施し、カルテを今後の適切な管理のための基礎資料として供したい。また、その成果を市民をはじめ全国会員などを通じて広範に広報することで、巨樹・巨木林の保全思想の啓発を進めたい。これらの実現のための仕組み作りが当面の課題であり、関係諸機関へご協力をお願いすると共に、弊会上げて真摯に取り組む計画である。